

医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院
(第 57 号)

発行：令和 7 年 4 月 1 日 (火)



患者さんは医療チームの一員

あなたのアレルギー情報を教えてください

医療安全管理部 医療安全管理者 矢野 綾子

「チーム医療」と言われたとき、患者さん自身が「医療チームの一員」という認識を持っている方はどれくらいいるのでしょうか？

「VUCA (ヴーカ)」という言葉に代表されるように、社会全体が激しく変動し、不確実性が高く、複雑で曖昧になっており、将来の予測がつかない困難な状況にあると言えます。医療を取り巻く状況も同様で、医療現場は益々複雑で高度化しています。医師の働き方改革やタスクシフトなどが推進され、一人で完結できる医療はもはや存在せず、専門職がそれぞれの専門性を活かし、チームとして機能しないと医療を実践することは難しくなっています。医療者の中にも患者さんも医療

チームの一員ですと言われてもピンとこない方も沢山いると思います。イメージで言うと、右の図のようなイメージでしょうか？



患者さんは、ご自身の身体の専門家です。患者さんやご家族からの情報提供がなければ、医療の専門家たちも、治療や看護は実践できません。ご自身の状態を医療者に伝えるのは、意外に難しいものです。私の父も「なんか調子悪い」としか言わないので、母に「どこがどんなふうに調子がわるいの？」とよく叱られています。自身の状態を的確に表現することは、私たちですら難しいことがあります。専門用語を使って説明する必要はありませんが、「いつから、どのようなことがあったのか、何をしているときに、どんな状態なのか」など、具体的な情報が多いほど、診断や治療に役立つことがあります。アレルギー情報もまさに大事な情報です。

お薬は？食べ物？造影剤のアレルギーは？などです。食べ物は日々のことですので、以外に情報提供しやすいと思います。しかし、お薬や造影剤に関する情報は、覚えていないこともあります。また、医療者に曖昧な情報のまま伝えられていることも原因かもしれません。一概にアレルギーといっても、その原因を特定することは意外に難しかったりもします。原因が特定されない場合の説明が、患者さんには曖昧に感じるかもしれません。少なくとも、患者さん自身には、アレルギーと思われる症状が出た時の状況は伝えなくてははいけませんし、注意を促す必要もあります。

当院では、患者さんご自身でもアレルギー情報を確認できるように、「患者さん安全情報カード」という右の図のようなカードを提供しています。このカードは患者さん自身で情報を書き足していただいてもかまいません。それらのアレルギーに関する情報をもとに、我々は電子カルテにアレルギー情報を登録し慎重に対応しています。医療チームの一員である、患者さんからも、ご指摘、ご注意などのお声かけをいただくと、より安全な医療を実践することにつながると思います。患者さんやご家族が、「よし一緒に協力してやろうじゃないか」と思っているように、私たち医療者自身も努力を惜しまず、精進を重ねていきたいと思っています。

患者さん安全情報カード	
診療券ID	
氏名	
生年月日	性別
【診療券と一緒に携帯してください。裏面を確認してください】	
日本医科大学千葉北総病院 TEL 0476-99-1111 (代)	
薬剤アレルギー (例: ペニシリン系)	食物アレルギー (例: 牛乳、卵、小麦)
造影剤アレルギー (例: コントラスト)	
麻酔関連アレルギー (例: キシロカイン)	体内埋込み医療用器具や金属類 (例: ペースメーカー、関節の金属)
その他アレルギー (例: 虫刺さ刺激)	今までにアナフィラキシーとされたことがある ある / ない

「患者さんの安全を守るために」

～新人MEとして1年間勤務して医療安全について考えたこと～

ME部 金井 萌音

私は2024年4月に入職し、臨床工学技士(ME)として働いています。

ME部の業務の1つに、ME機器管理室(以降、機器管理室)での業務があります。

読者の皆さんの中には機器管理室自体を見たことがない方もいらっしゃるかもしれません。患者さんの安全を守るために、機器管理室でどのような業務を行っているのかを紹介していきます。機器管理室では、院内で使われている医療機器の保守、点検を主に行っています。輸液ポンプやシリンジポンプ、人工呼吸器、ベッドサイドモニター等、大きく分類するとおよそ15種類の医療機器を管理しています。使用後の機器の清拭と点検、機器ごとに定められた定期点検を実施することで、メンテナンスを行っています。例えば院内の様々な場所にAEDや除細動器が配置されていますが、これらの点検も毎月行います。そして業務の中には病棟ラウンドというものがあり、稼働中の人工呼吸器やモニター類、麻酔器、急速輸血・輸液加温システム、病院保有の救急車内にある除細動器の点検を行います。

まだ入職して間もない頃、自分の感覚を研ぎ澄まして業務を行うことがとても大切だということを教わりました。私が機器管理室業務をしている中で、その感覚がいかに重要であるかを実感しています。五感というものがありますが、五感の中でも視覚、聴覚、触覚の3つは欠かせないものだと思います。

今回、人工呼吸器の点検においてこの3つの感



まず「視覚」では機械の破損の有無、人工呼吸器回路の呼気側と吸気側の接続が逆でないこと、設定しているモード、数値の確認、波形の読み取り、配管、コンセントの接続状態等を確認することができます。次に「聴覚」ではアラームが適切な音量で鳴ること、エアリークの音がしないことの確認ができます。そして「触覚」ではアームや回路接続の緩み、加温加湿器による回路内温度の上昇を温もりとして感じられます。この他にも多くの確認事項がありますが、このように人工呼吸器の点検では様々な感覚を使うことが重要であると言えます。また、機器の点検の中には、ダブルチェックを行う機器がいくつかあります。少し例をあげます。人工呼吸機の使用後点検があります。最初に点検した人だけでなく、さらに1人でも多くの感覚を使うことで、欠落部分をなくすことにつながります。次にベッドサイドモニター、送信機を貸し出す際のチャンネル確認です。もし既に使われているチャンネルと同じチャンネルを設定し、そのまま病棟へ貸し出された場合、混信が起これ心電図などの各種パラメータにおける波形や実測値の表示がされない等の恐れがあります。そのため、チャンネル設定時は必ずダブルチェックを行うことで安全性を高めます。

機器管理室での日常業務が患者さんの安全に直結していること、また自分の感覚を研ぎ澄まして点検を行い、そして必要に応じてダブルチェックを行うことが安全を守る上で大切だと考えます。今後業務を継続していく上で、これまで培った感覚を大切にしながら、新たな学びを得て活かしていく機器管理ができるよう努めていきたいです。



編集後記

年度末を駆け足で過ごし、何とか57号の発刊ができました。寄稿いただいた皆様ありがとうございました。今年も多くの方が新しく北総病院の一員になりました。みなさんとチームとなって、医療安全を促進していきましょう。私事ですが、今号をもって編集委員を卒業することになりました。今後もニュースレターが皆さんの情報として役に立つことを願っています。ありがとうございました。 岩井 智美 記

【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。
電子メールアドレス
h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。
ホームページアドレス
<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会

片山靖史(委員長)

金 徹 矢野 綾子 岩井 智美
花澤みどり 岡本 直人 小野澤 信悟
石井 聡 岸 大輔